平成 25 年度施策マネジメントシート1（平成24年度実績の評価）

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合計画体系				
	政策名	Ⅳ ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり 《教育・文化》	施策主管課	学校教育課
			施策統括課長	加納 忠夫
	施策名	23 学校教育の充実	関係課	地域振興課,長寿障がい福祉課,教育総務課,社会教育課

1. 施策の目的と指標

目的			単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①対象（誰、何を対象としているのか）	対象指標									
児童・生徒（小学校・中学校の児童生徒）	A	小学校の児童数	人	実績	2,244	2,187	2,101	2,051		
				見込			2,057	2,016	1,936	1,889
	B	中学校の生徒数	人	実績	1,197	1,157	1,164	1,151		
				見込			1,187	1,169	1,130	1,123
	C			実績						
				見込						
②意図（どのような状態にするのか）	成果指標									
生きる力を身につける。→生きる力とは？・基礎基本（知・徳・体の面）を身につけて、課題を見つけ、判断する能力	A	学力調査の結果（県平均との差：小学6年・中学3年、国語）	ポイント	実績	小▲1.4・中1.0	▲2.7・▲1.3	▲0.1・0.3	▲0.8・▲0.1		
				目標			0.3・1.0	0.3・1.0	0.3・1.0	小0.3・中1.0
	B	スポーツテストの結果（県平均との差：小学5年・中学2年、男女平均）	ポイント	実績	小1.8・中3.8	2.3・2.9	▲8.4・0.5	0.28・0.65		
				目標			1.5・2.5	1.5・2.5	1.5・2.5	小1.5・中2.5
	C	「将来かなえてみたい夢がある」と答えた児童生徒の割合（小学6年・中学3年）	%	実績	小86.3・中68.3	85.9・76.5	86.9・75.7	86.1・75.9		
				目標			61・39	62・40	63・41	小64・中42
	D	不登校児童生徒の割合	%	実績	小0.55・中3.20	0.45・3.37	0.33・3.69	0.49・3.3		
				目標			0.53・2.70	0.52・2.40	0.51・2.20	小0.50・中2.0

成果指標設定の考え方（成果指標設定の理由）	A）B）生きる力を身につけるためには、知力、体力が必要であり、その基礎基本が身についているかどうかを把握する必要があると考えた。 C）徳力を総合的に把握するものとして、「将来かなえてみたい夢がある」かどうかが重要であると考えた。 D）生きる力を身につけるためには義務教育を受ける必要があるが、雲南市の不登校児童生徒の割合は県平均よりも高いので、今後も指標としてみていく必要があると考えた。
成果指標の測定企画（実績値の把握方法）	A）学力調査の結果 ・県の調査は小3～中3まで実施 ・全国調査は小6・中3の抽出調査 B）スポーツテストの結果 ・毎年5月6月に実施、教育委員会経由で県に提出（提出時に集計） C）生活実態調査の結果 D）島根県教育委員会調査で把握
目標設定とその根拠（基本計画策定時）	A）成行き値は同程度で推移すると考えた。目標値は、それよりも向上を目指すべきと考え設定した。 B）成行き値は上昇していくと考えた。目標値は、成行き値が十分高いため、同水準で設定した。 C）成行き値は同程度で推移すると考えた。目標値は、夢発見プログラムを推進することにより、5ポイント程度向上させるよう設定した。 D）成行き値は同程度で推移すると考えた。目標値は、H22からの専任指導主事の配置により、減少させていくよう設定した。

2. 基本事業の目的と指標

	基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①	教育内容の充実	児童・生徒	充実した教育を受ける。	独自プログラムの実施率	%	実績	100	100	100	100		
②	教員の指導力の向上	児童・生徒	質の高い教員の指導を受ける。	学校の授業がわかると答えた児童生徒の割合	%	実績	小83.6 中71.5	78.0 66.5	80.8 60.3	79.1 69.9		
③	教育施設・設備の充実	児童・生徒	充実した教育施設・設備を利用できるようにする。	①耐震化率 ②図書充足率 ③理科備品充足率	%	実績	①小73.1中81.8 ②小85.9中68.6 ③小20.7中30.0	①80.8・86.4 ②91.9・88.1 ③21.0・30.6	①84.6・90.9 ②96.9・69.6 ③27.3・27.7	①90.0・100.0 ②97.4・69.6 ③29.8・26.1		
④	学校支援の充実	児童・生徒	地域の力を活用できるようにする。	学校の勉強や活動で地域の人によくお世話になっていると思う児童生徒の割合	%	実績	－	79.4	88.3	90.5		
⑤						実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民（事業所、地域、団体）の役割	行政（市、県、国）の役割
①役割分担	●家庭では、子ども達の心身の健康を育み、生活体験を通して生活習慣や善悪の判断等規範意識の基盤をつくる。 ●地域では、子ども達が安心して活動できる安全な地域づくりを進め、子ども達に多様な体験の場を提供する。 ●地域は、学校現場への積極的な関わりを持つ。	●児童生徒の個に応じた教育環境をつくる。 ●支援が必要な児童生徒への支援体制を充実する。 ●確かな学力の定着と、社会生活における生きる力を醸成する。 ●児童生徒が安心して学習できる安全な環境をつくる。 ●教員の教育力・資質向上を図る。
②状況変化	A）施策を取り巻く状況（対象や根拠法令、社会情勢等）は、今後どのように変化するか？（本年度を見越して）	B）この施策に対して、住民（対象者、納税者、関係者）、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？
	○「雲南市立学校適正規模・適正配置基本計画」に基づき、子どもの健全な「育ち」「学び」を最優先とした上で、学校統合等を進めている。○国においては、学習指導要領が改訂された。（授業時数の増、確かな学力の定着、わかる授業の展開）○指導支援グループ、SSW、スクールカウンセラーなどにより、不登校・生徒指導対応等の体制強化を図っている。○社会教育と連携して不登校対応プログラムを実施している。○雲南市独自の夢発見プログラムを市内全ての保幼小中で推進している。○本市では、学力向上検討委員会を組織し、学力調査の分析と今後の取り組みを検討している。	○住民からは、子どもの教育環境の充実面等を考え学校統合を望む声と、地域に子ども（学校）がいなくなることの地域の衰退を防ぐため、反対する声がある。 ○議会からは、学校統合について住民合意の確保について意見がある。 ○夢発見プログラムの推進を求める議会意見がある。 ○教育相談・支援が必要な児童生徒への支援体制の充実が望まれている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準）

- □ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。
- ■ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。
- □ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。
- □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。
- □ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。

背景・要因

○将来の夢をもっている児童生徒の割合は、H24年度全国調査で69.8%、となっており、雲南市の小学生86.1%・中学生75.9%は高い水準と考える。これは、夢発見プログラムによる夢発見ウィークや幸雲南塾の取り組みが効果を上げていると言える。
○学力調査の結果は、小中学校ともに県平均とほぼ同水準である。
これは、学校の日々の指導の取り組みが成果を上げていると言える。
○毎日朝食を食べていない児童生徒は、ほぼゼロであった。

平成25年度施策マネジメントシート2（平成24年度実績の評価）

《23 学校教育の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較（成果水準の推移）		
□ 成果がかなり向上した □ 成果がどちらかと言えば向上した ■ 成果はほとんど変わらない（横ばい状態） □ 成果がどちらかと言えば低下した □ 成果がかなり低下した	背景・要因	○学力調査の結果は、横ばい状態と判断できる。○将来かなえてみたい夢があると答えた児童生徒の割合は、小学生は0.8ポイント低下し、中学生では0.2ポイント向上した。夢発見プログラムの成果により既に高い水準にあると判断する。○不登校児童生徒の割合は、中学校は昨年に比べ減であるが、小学校では増加傾向にあり、引き続き支援・対策が必要である。○理科備品等の充足率は徐々には向上しているが、依然として低く、これを高めていく必要がある。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度 （前年度の成果指標値に対する実績値の達成度）		
□ 目標値より高い実績だった ■ 目標値どおりの実績値だった □ 目標値より低い実績値だった	背景・要因	○学力調査の結果は、目標値に比べ低い。 ○将来かなえてみたい夢があると答えた児童生徒の割合は、小・中学生ともに目標値を上回っている。これは、夢発見プログラムの成果だと言える。 ○不登校児童生徒の割合は、小学生で目標値を下回り、中学生では上回った。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括 （事務事業貢献度評価：貢献した事務事業、課題が残った事務事業）
① 教育内容の充実	・夢発見プログラムを実践している。（夢発見ウィーク、幸雲南塾inさんべ、お弁当の日等） ・夢発見プログラムの保幼小中の一貫したプログラムへの見直しを行った。 ・中学生を対象として高校生や大学生が関わるカタリバ事業等を実施した。
② 教員の指導力の向上	・指導支援グループ（指導主事）による学校訪問を行った。 ・特別支援教育の観点からの学校訪問を行った。 ・いじめ防止、体罰防止の教職員研修を実施した。
③ 教育施設・設備の充実	・小中学校耐震化事業により、H24年度4校を耐震整備した。 ・特別支援学級2校を新設した。 ・学校図書、備品の整備や更新を随時行っているが、特に充足率の低い理科備品の整備は課題である。
④ 学校支援の充実	・学校支援員配置事業により、学校支援員延べ37名を配置し、支援の必要な児童に対して学校生活支援を行った。・不登校対応プログラムを実施した。・スクールカウンセラーを市内全小中学校に配置し、また、SSWを市内1名配置しているが、事案が多く、体制の強化が望まれる。・特別支援学校分教室の設置について県教育委員会と検討し、H27年度設置が決定した。
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針（案）

区分		今後の課題	次年度の方針（案）
施策		○学校・家庭・地域の連携を図っていく必要がある。 ○保・幼・小・中の一貫性・連続性をもたせた教育を推進していく必要がある。	○学校・家庭・地域の連携を図っていく。 ○保・幼・小・中の一貫性・連続性をもたせた教育を推進していく。 ○学校適正規模適正配置基本計画に基づいて、PTA・地域・学校と話し合いを進めていく。
基本事業	① 教育内容の充実	○見直しをした夢発見プログラムの周知と着実に実施していく必要がある。 ○教育支援コーディネーター、社会教育コーディネーターの制度を活用し、教育内容を充実していく必要がある。	○教育支援コーディネーター、社会教育コーディネーターが学校・家庭・地域を連携させ社会全体で子どもを育てる仕組みをつくっていく。 ○授業の工夫や時数の確保を図っていく。 ○小学校における英語教育の取り組みについて検討する。
基本事業	② 教員の指導力の向上	○保・幼・小・中の一貫性のある教育を推進していく必要がある。 ○各種研修会に積極的に参加していく必要がある。 ○中学校区で教員間の交流・研修を進めていく必要がある。	○各種研修会に積極的に参加していく。 ○保・幼・小・中の一貫性のある授業の開発に努める。 ○中学校区単位で小中学校の授業を積極的に公開することにより、幼保で取り組む共通題材の発展性を考える。 ○教職員が授業改善のための情報交換をする。
基本事業	③ 教育施設・設備の充実	○体育館等の天井等落下防止対策を進めていく必要がある。○学校図書・備品の充足率を向上させる必要がある。○スクールバスの計画的な更新が必要である。○学校給食センターの統合整備を進める必要がある。	○体育館等の天井等落下防止対策を進めていく。 ○学校図書・備品の充足を計画的に進めていく。 ○スクールバスの計画的な更新を図っていく。 ○学校給食センターの統合整備を検討していく。
基本事業	④ 学校支援の充実	○学校支援員、介助員の継続的な配置が必要である。○学校教育を支援し、社会教育を担うコーディネーターの継続的な配置が必要である。 ○地域ボランティアの積極的な学校への参画を求めていく必要がある。 ○スクールカウンセラー、SSWの関わりが必要な児童生徒に対する支援体制（人的配置、組織強化・連携）が必要である。	○学校支援員、介助員を引き続き配置する。 ○学校教育を支援し、社会教育を担うコーディネーターを引き続き学校に配置する。 ○地域ボランティアの積極的な学校への参画を求めていく。 ○支援が必要な児童生徒に対する支援体制を強化していく。
基本事業	⑤		